



- ▶ 学年 小学校 第5学年
- ▶ 単元 He can bake bread well.

POINT 01

対話的な学びを引き出す教師の仕掛け

この単元は、「来日間もないALTに私たちの学校の先生をもっと知ってほしい」という児童の思いを基に、先生方についての紹介カードをつくり、ALTにより詳しい情報を伝えることを通して、英語に慣れ親しむことをねらいとしている。児童は、「Can you ~?」を用いていろいろな先生にインタビューを行い、詳しい情報を集めた。その後、タブレット端末（以下、TPC）を使い、カードに新しい情報を付け加え、ALTに英語で伝えられるよう整理した。本時では、児童が「どのように英語で表現したらよいか？」と考え始め、TPCを活用し、一人でじっくり思考したり、お互いの考えを聴き合ったりするなど、以下のような対話的な学びが展開された。

POINT 02

対話的な学びの様子

◎TPCを活用し、自分の作成した先生紹介カードを基に、対話をしながら情報を整理する。

教師「作ったカードを読み合い、知っていることや気付いたことをコメントして送り合おう。」

- 児童A「『Mr.Suzuki can play soccer. He can run fast. He can ride a bike.』よし！できたぞ。」(☑➡児童B)
- 児童B「なるほど。鈴木先生はサッカーもできるし、足も速いのか。そうだ！『鈴木先生は料理が得意』ということもAさんに教えてあげよう。」(☑➡児童A)
- 児童A「そうか。鈴木先生は料理も得意なのか。でも、『料理が得意』って英語でどう表現すればいいのかな…。」
- 児童B「『Good』を使えるんじゃないかな。」
- 児童A「『Good』は前にも出てきたね。それでいいのか調べてみよう！」

※(☑➡児童○)は、児童○に『~』についてタブレットでメッセージを送ったことを示している。



(その後、児童はそれぞれにつけ加えたい内容を考え、それを英語でどのように表現すればよいかという問いをもった。)

- 児童C「ICTが得意って英語でどう表現すればいいのかな。TPCで調べてみよう。」

ICTに詳しい。
⇒ I'm familiar with ICT. (TPCの翻訳機能を使用)

「I'm・・・ICT. 単語が難しくて読めないな。」

- 児童D「見せて。たしかに分からないね。どうしようか。」
- 児童E「TPCの音声読み上げ機能を使って聞いてみよう。」



QRコードより、児童が対話している場面と授業解説の動画が視聴できます。



一『授業者の視点』—L、M

(相双教育アピールより)

児童が伝えたい「内容」だけではなく、伝えるための「英語表現」も思考・判断することで、対話的な学びを活性化させる。

POINT 03

学びが深まった児童の姿

この授業では、既習事項を用いて自分が伝えたい内容を英語で表現できることに気付いたり、新たな英語表現に出合ったりしながら、課題解決に向け主体的に取り組むことができた。さらに、「どのように英語で表現したらよいか？」とお互いの考えに寄り添い、一緒に調べたり、考えを聴き合ったりする対話的な学びを通して、自らの考えを発展させながら課題解決にたどり着くことができた。